令和6年度 第1回夢・未来たからづか創生本部会議

日時：2024 年 5 月 24 日（金）15：30～17：00
場所：政策会議室（旧3－3会議室）
【次第】
1 開会（山﨑本部長挨拶）
2 議事
議題「第 2 期夢・未来たからづか創生総合戦略の改訂について」
3 その他
4 閉会

【配布資料】
資料1　総合戦略見直しの方向性について
資料2　（改訂案）第2期夢・未来たからづか創生総合戦略
資料3　総合戦略具体取組検討シート回答まとめ
資料4　スケジュール案
資料5　宝塚市の人口推移

【出席本部員】
山﨑市長、井上副市長、藤島副市長、赤井理事、木田技監、福永上下水道事業管理者、古家企画経営部長、羽田市立病院経営改革担当部長、吉田（恭）財務担当部長、綛谷市民交流部長、中出総務部長、政処経営改革担当部長、江崎都市安全部長、数田危機管理監、吉田（康）都市整備部長、藤本健康福祉部長、西垣子ども未来部長、加藤環境部長、影山新ごみ処理施設整備担当参事、岡本産業文化部長、高橋消防本部長、津田議会事務局長、髙田管理部長、藤川学校教育部長、番庄社会教育部長、下野上下水道局長、岡田経営統括部長
【欠席本部員】
五十嵐教育長

【議事録】
本部長 ： 議題について、事務局から説明をお願いする。
事務局 ： （説明）
本部長 ： 何か質問や意見、感想はあるか。
本部員 ： 以前、戦略は地方創生推進交付金を活用するために作ったものだったと思うが、今回もデジタル田園都市国家構想交付金（以下、「デジ田」という）の獲得のために改訂が必要ということか。網羅的に作り直す必要があるのか、今回の改訂によってどのような交付金が活用できるのか確認したい。
事務局 ： 地方創生推進交付金の名称が変更となり、デジ田となった。その中の地方創生推進タイプは地方創生推進交付金の理念を継承し目的は同じだが、デジタルを活用することが要件となっている。他方で従

来のデジ田であるデジタル実装タイプはこの戦略がなくても活用が可能であり、本市でも書かない窓口や校務支援などに活用している。ただし、デジタル実装タイプは1年のいわゆる導入資金のみであり、地方創生推進タイプは3年の計画となるので長期で活用することが可能な点がメリットである。交付金の使い勝手は以前よりはよくないかもしれないが、財源が限られている中活用はしていくべきと考えている。一方で戦略の改訂は、交付金のためだけではなく、そもそも今後人口減少にどう対応していくか考えていくためにも議論が必要と考えている。

本部員 ： もともとデジ田は横展開が必要など要件があったと思うが、広く使えるという認識でよいか。

本部員 ： 他市の状況をみると観光など様々な分野でこの交付金を活用している。本市は活用しきれていない。どんどん新規事業をするわけではないが、活用すべき交付金と思う。今の総合戦略はデジタルの意識が薄いので戦略を見直して、デジタルを意識した交付金を様々な分野で活用することが必要だと思う。

事務局 ： 他市は地方創生推進タイプを 1000 万円ほど活用できているが本市は300万円ほどにとどまる。もっと活用していきたいと思っている。

本部員 ： 一つのテーマをくくりプロジェクトを作って申請していたように思うが、そこは変わらないのか？

本部員 ： いくつかプロジェクトを作って申請することも可能である。（例：豊岡市）

事務局 ： 使えるメニューとしては1市3プロジェクトまで。プロジェクトは政策間連携をして一つのメニューとしており、何個かの事業を組み合わせて申請できる。補助率は 1/2 で、1 事業補助上限は7000万円、申請事業数の上限は3事業である。

本部員 ： もともとこの交付金は施策間連携、官民連携、地域連携など、市の単独事業ではなく地域における仕事創出などに重点が置かれていた。デジタル活用が追加されたとしても同様か？

事務局 ： そのとおり。自立性など交付金の目的や必須要件は変わらない。何年かたったら地域の力や市単独費用で継続していくという考え方である。

本部員 ： それであれば地域の雇用促進などでは使えると思うが、市役所自体でのシステム導入などは使えないのか？

本部員 ： デジタル実装タイプの対象となると考えられる。

本部員 ： 総合戦略では、持続可能なまちづくりを掲げて、庁内検討会で議論もしてきたとのことであるが、人口減少になったときにどんなまちになるのか、どんなことをしていったらいいのかを議論したのか。定住人口・交流人口の間にある「関係人口」の取り組みが薄いように思っている。人口が減少していく中で、いわゆる宝塚市の「ファン」で市がしようと思っていることを助けてくれる、関わってくれる人を増やしていくことでこの先やろうとしていることが進むのではないかと思う。関係人口に関する議論の状況はどうか。

事務局 ： 複数の部局から提案があったものを議論したが関係人口に関する議論は十分できてはいない。

本部員 ： 今後のワーキンググループで話していければと思っている。関係人口のテーマを設定して考えてもいいと思った。

本部員 ： 説明で社人研は外国人の来日も加味していると説明があったが、宝塚市として外国人の転入はポジティブなのかネガティブなのか。

本部員 ： 議論したことはあまりないと思うが、流れとして市内企業で働く外国人労働者は増えていると思う。人材確保の観点からすると外国人に転入いただくほうがよいと思っている。

本部員 ： 施策として、積極的に受け入れを促進する方向に積極的に舵を切ってサービスを充実させていくのか、急激に入ってくると社会問題にもつながることもあるので、慎重にするのか、そのあたりのスタンスはいかがか。

本部員 ： たとえば、今後の介護をとりまく事情等を考えると、雇用主として外国人を受け入れている事業者もある。ただ一方市はなにもしてくれないという声もあった。働く外国人が地域で日常生活を送る、生活になじめるような施策も今後人口減少が見込まれる中で必要となってくると思う。

本部長 ： 10 年以上前だが市内で悲しい事件があったこともあり、以前より日常的なサポートをしてきた。そういう施策は引き続き必要と思う。学校での外国人の受け入れの状況はどうか？

本部員 ： 確かに海外からの生徒数も増えている。通訳などの日本語支援等を行っている。これからも増えていくと思っている。

本部員 ： 1クラスに1人はいる印象である。ただし、働く環境として受け入れ企業がそこまでないので外国人の雇用を積極的に進めるという流れはあまりないように思っている。

本部員 ： 東京だとコンビニ店員は海外の方がほとんどである。介護現場や看護も外国人が増えているが宝塚ではあまり見ない。人口戦略を考えるときに外国人に担ってもらうまちづくりという部分も考えていく必要はあるように思う。

本部員 ： そういった部分も今後テーマとして取り上げる必要があると思った。

本部員 ： 昨日、豊岡市の前市長が来て講演していた。豊岡は国勢調査を用いて若者男女別で人口推移を分析していた。その中で女性の転出が多く、ジェンダーギャップがあるのではないかと分析していた。男女の平均収入を比べると女性のほうが低い。そこを改革していかねばという話をしていた。豊岡は柱としてコウノトリ、受け継いできた文化、演劇、ジェンダーギャップの解消などまちづくりをつなげて考えている。女性に来てもらい女性に住んでもらう、演劇をするために東京から来てもらうなどということを考えている。うちはジェンダーについて書いているところが少なく掘り下げていない。豊岡は外国人との共生についても進める方針を打ち出している。根本的に現状や、どこに原因があり、今後どうしていったらいいのかなど、デジタルの視点を入れるだけでなく、もうちょっと根底から考えていったほうがいいのではないか。

本部長 ： 市長になってから3年目に入るときに、宝塚の強みは「女性活躍」だと思い、女性を呼び込む施策を展開したいと話をした。歌劇等で育まれた風土からか、県下で初の女性村長が誕生するなど、昔からジェンダーギャップが少なく、男女関わらず同等にやっていける街だと思っているからである。本市ならではの強みはやはり女性活躍であり、人口減少の突破口になるのではないかと感じている。

外国人については、最近は海外の方が馴染みやすいように、HP 等にやさしい日本語を使ったページをアップしている。これは神戸女学院の方にも協力してもらって自治会の入り方や子どもの条例についてわかりやすい日本語に変えてもらったものである。国際交流協会でも日本語教室を実施したりしているので、自分たちが望む仕事ができる地域だと海外の方に選んでもらえるようにできればいいと思う。

社人研の統計データは外国人の流入を加味しているとのことなので、我々も受け入れていかねばならない。技能実習生の資格をとる練習場を西谷につくれないかという話をいただいたこともある（芝生やアスファルトを引く練習など）。ただ一方で、文化の違いはフォローをしながら進める必要はあると思う。今後の議論によってどう改訂していくかが変わってくると思う。

本部員 ： 現実と理想があるが、現実を理想に持っていくのが戦略だという講演だったが、課題があっても理想を

定めることは大切だと思う。

本部長 ： 今後次長級で構成するワーキンググループで議論を進めていくのであれば、次長級にもこの会議で経営陣が議論したことと同じ認識を持ってもらわないといけない。

本部員 ： 外国人が宝塚に住まない理由はなにか。そこを分析して今後の方針を考えてはどうか。

本部員 ： 現場に出ることが多いが工事現場の解体作業ではオペレーター、トラック運転手など海外の人が多いように感じる。食品工場等も様々な海外の方が多い。ただ見ていると市内で働いても電車に乗って、市外で共同生活を送っているようだ。安く住める環境がないのかもしれない。

本部員 ： 基本海外の方は派遣会社に属し、派遣されていることが多い。子どもは学校でかかわることがあるが、大人の方はなかなか市民とコミュニティを築くことが難しいようだ。

本部長 ： 人口を増やすためには宝塚に住んでもらわないといけない。

本部員 ： 西谷での就農など技能実習生などで入ることが多いとは思う。

本部長 ： 技能実習生で入ってきても、こちらで家を持ち終身雇用している人もいるようである。住めるコミュニティと働ける場所を作ることが大切である。

本部員 ： 国としても海外の人を受け入れていくという方針に変わってきている。制度等も変えて、技能実習生の名称もかわり、家族で住むことも可能となっていく流れのようなので、本市としてどう対応していくのかをもっとしっかり考えていく必要があると思っている。

本部長 ： 社人研の予測で海外の人の増加が見込まれているということは、外国人の受け入れの施策をしないと人口減少に歯止めがかけられないということである。海外の方にも女性の方にもこの街を選んでもらわないといけない。選ばれ方も考えていく。それをもって個別の施策を次長級のワーキンググループにおろしていく流れだと思っている。

事務局 ： 人口の抑制の議論に加えて、抑制しても人口が減っていくことは避けられないのでどういう施策をとっていくかという議論も必要と思う。

本部員 ： 今日、今後議論すべきテーマについて意見をいただいて、どういう課題があり、どう議論していくべきか少し見えたように思う。

本部員 ： 宝塚の強みがなにか、なぜ人口減少するのか。なぜ宝塚に人がこないのかを考えるべき。やはり宝塚は家賃・物価が高い。なるべく安く生活する必要がある海外の方は集まりづらい。市として家賃を安くすることは難しい。本市として何ができるのか、その現実性も含めて議論していく必要があると思う。

本部員 ： ターゲットをどこにしぼるのかは大切だと思う。安倉北の区画整備事業をみていると、宅地で1区画6000万ぐらいするが、共働き世帯の若い方が住んでいる。高くても若い人が増えているので、なにか人を呼び込む仕組みを作れば入ってくる可能性はあると思う。

本部員 ： 20 代は転出超過だが30代は転入超過傾向なので、そこをより強化していくというのはいいと思う。まだ不十分なものはあると思う。

本部長 ： 子育て施策で無償化等の金銭的支援を打ち出すのは財源がもたないし、そもそも国策としてやるべきことで、都市間競争をするべきものではないと思っている。そこで、宝塚で教育を受けさせたいと思ってもらえるように、宝塚で子どもを育てると「こういう教養がつく」というような魅力的な授業などを特色としてだせないか。授業カリキュラムが密に組まれていて独自色を出すのは簡単ではないとは聞いているが、売布小の菜の花プロジェクトなど独自色を出しているところもあるので、できる余地はあるのではないか。子どもたちに家庭の経済状況等に関係なくいろんな経験を学校でさせてあげることで、選ばれ

やすいまちになればいいと思う。

本部員 ： 教科学習はカリキュラムが固定されているが、教育委員会から学校に校外活動などに宝塚らしさをいれてもらうように働きかけていくことはできると思う。

本部員 ： 教育委員会の話だけではないが宝塚で住むにあたり、HP を見る人は多いと思う。例えば学校の HP を見たときに楽しさとか明るさなどもっと発信・宣伝していくことが必要である。人に来てもらうには発信が大切であるが、現状は、情報が古いことが見受けられる。今は共働きの人は高級な家を購入する方も増えている。

本部員 ： 今まで金利が低かったことも一因と考えられ、今後、金利があがればどうなるかわからない。経済力のある方は私立の学校を選ぶ人も多いので、行政が直接関与していないリソースに目を向けることも大切である。本市の私学の中学、高校は選ばれる要素があると思っているので、そうした学校とも連携していくことが今後大切かと思う。

本部員 ： この会議の本部員は子どもが大きくなった人が多い。若い職員がどういう基準で住む場所を選ぶのか、我々と考えが違うように思う。宝塚に来たくなる、集まってくる仕組みがあればよいと思う。

本部員 ： 今日いろいろ意見が出たが、今後どう進めていくか、今のままのスケジュールだと意見を言える場が少ないと思う。今までの考え方と変わる部分もあると思うし、外国人の転入促進は人口ビジョンにも関わってくる話なので、パブリックコメントを募集する前に、もう少し議論が必要だと思う。

本部員 ： 今後まずはワーキンググループで議論を進めていくが、パブリックコメント実施前に創生本部での議論の場を設けられるようにスケジュール調整できればと思う。

本部長 ： 様々な意見をいただいた。今後ワーキンググループを丁寧に進めていただきたい。

本日の議事はすべて終了した。全体を通してなにか質問や意見などはないか。

＜意見等なし＞

本部長 ： それでは、これをもって令和6年度第1回夢・未来たからづか創生本部会議を閉会する。